4　将来像の実現に向けたマネジメント

■ みんなで“リノベーションまちづくり”の浸透

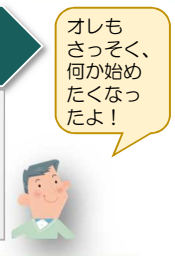
将来像の主旨にもある「リノベーションのまちづくり」は、古い建物を改修するということだけではありません。リノベーションはRenovationと書き、つまり「Re-innovation」ということになります。イノベーションとは、新たなアイデアや価値を創造・発明することであり、リノベーションとは新たなアイデアや価値を創造しなおすということになります。「まちづくり」は、行政だけが行うものではなく、日々の暮らしの中で一人ひとりが始められるものです。自分のまちで楽しく暮らす工夫を続けることで小さな芽が市内に広がり、このまちを変えていくことがリノベーションまちづくりに繋がっていくのです。

■ “官民連携まちづくり”を進める行政のスタンス・取組

① 「官」「民」それぞれにとっての相乗効果を生むようなまちづくりを行います
② 庁内組織で横断的な連携を図り、官民一体となって取組んでいきます
③ 市民、民間事業者、団体等が活動しやすいよう、全力で支援します

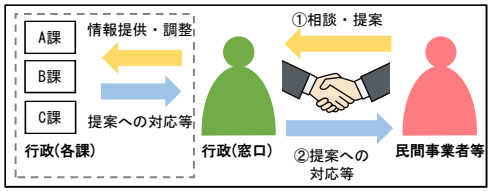
■ 官民がwin-winとなる官民連携まちづくりのフェーズ検討

第1フェーズ 種を蒔く段階	第2フェーズ 芽が出始めた段階	第3フェーズ 育てる段階	第4フェーズ 実る段階
団体等によりまちづくり活動が活発に行われている	共創の窓口を設置、官民の情報共有を図る場の調整を行い、小さな新芽となる活動へつなげるためのきっかけを作る	様々なまちづくりに関する企画者、参加者、実行者など、活動・取組を支える	グランドデザインが目指す4つの取組キーワードの達成につながり、将来像が実現

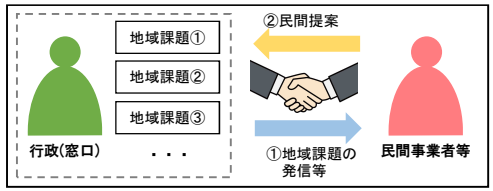


■ 共創のまちづくり窓口設置による官民のマッチング

■共創の窓口を設置した上で、民間提案に対して官民の共創で取り組む場合



■自治体の地域課題テーマを提示した上で、民間提案を受けて共創で取り組む場合

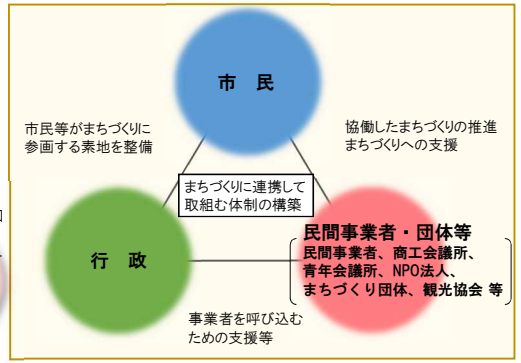


■ エリアマネジメント推進体制の構築

府中市を支える様々な業種・業態から民間事業者の参画と、地域づくりを進めるNPO法人、団体等、自治会等が加わったエリアマネジメント推進組織の設立や自律的な活動を支援するとともに、多様な地域活動との連携を図ります。

【官民の主な役割】

行　政	民間事業者・市民等
○ 道路や公園等の基盤整備 ○ インパクトのある施策・事業の実施 ○ 法規制等や各種まちづくりに関するガイドライン等の見直し検討 ○ 関係機関の調整・コーディネート ○ 人材を育て活かす ○ 各種勉強会や意見交換会等の場の提供　　等	○ 地域活動への積極的な参加 ○ まちづくり活動への参画 ○ ビルや空き店舗等のコンバージョン・リノベーションの提案 ○ 低未利用地の活用提案 ○ 人材を育て活かす ○ 情報発信　　等



府中市グランドデザインー概要版ー　発行日　令和2年（2020年）10月　発行・編集　府中市建設部都市デザイン課
〒726-8601　広島県府中市府川町315番地　℡ 0847-44-9170

府中市グランドデザイン

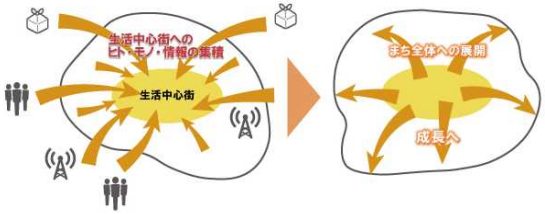
～ 府中の本物（まんなか）を感じ、「楽しみ」「暮らせる」まち ～

－ 概要版 －

令和２年１０月　　府 中 市

1　グランドデザインとは

府中市ではリノベーションや官民連携の取組など、まちが変わるための“新芽”が芽生えはじめています。
これらのまちづくり活動の新芽をまち全体に展開していくことが重要です。グランドデザインは、ヒト・モノ・情報等を周辺部から中心市街地に集積し、活性化させるための役割と集積した活力を効果的にまち全体へ展開させ、まちの全体の成長につなげる役割を併せ持つ計画です 。

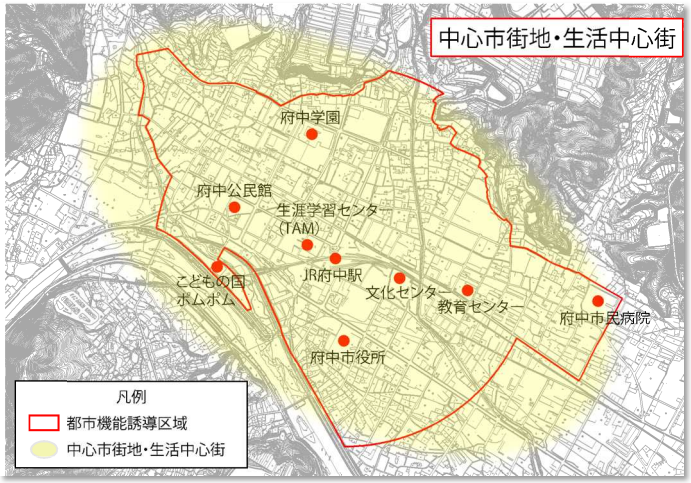


■ 主な目的

府中市が持つ魅力、歴史的・産業的価値を再認識し、住んでいる場所への愛着や自負心を育み、まちづくりに参加する機運を高めます。
また、多くの活動や取組により魅力を増した府中市を市外に向けてＰＲし、人やビジネスを呼び込むことで“来てみたい”“住んでみたい”と思ってもらえるまちを目指し、市民、企業、まちづくり団体と行政、さらには府中市に関係する人々が目指すべき将来像に向かって、方向性を共有し、それぞれの役割を担いながら着実に取組を進めていくことを目的とします。

■ 対象とする区域

グランドデザインは、これまでの市街地形成の過程や都市機能の集積状況等を踏まえ、全市民が本市の社会・経済の中心として共通認識し、全市域に波及的効果をもたらす価値の高い区域を中心市街地・生活中心街と呼び、右の図のとおり対象区域とします。



■ 目標年次

グランドデザインの目標年次は、概ね20～30年後としています。

まちのエンジンになる場所の価値を高めて、これからの府中全域で未来も元気で過ごすには、どうしたらいいか、考えようってことなんだ！

■ 近代以降のものづくりのまちの進展

現在の府中市は、江戸時代になると、瀬戸内側と日本海側を結ぶ主要街道である石州街道（雲石街道）の宿駅が設けられ、出口町から府中町の一帯は、街道沿いの宿場としても賑わい発展しました 。
近代に入っても、府中市街地は芦田郡の中心地であり、明治11年（1878）に安那・品治・芦田３郡の郡役所が置かれました。
明治31年（1898）に芦田郡と品治郡が合併し芦品郡が誕生し、新しい郡役所は、府中近代化の拠点、近代府中の新市街地形成の中核となっていきます。

その後、現在の府中市の主要な地場産業となっている衣服縫製や桐箱、味噌など江戸時代の伝統から発展した特産品のほか、機械・金属・化学・ゴム製品など、「備後国府」の様々な工房におけるものづくりが起点となり、今日の多種多様な“企業のまち”“ものづくりのまち”が形成されてきたといえます。

■ 目的から導くキーワード

- やっぱり大好き、府中 ～シビックプライドの醸成～
- 府中のイイところ。売り出し中！ ～シティセールス～
- 手をつなぎ、知恵を寄せ合う官民の輪 ～官民連携～
- 来て良し！住んで良し！の府中 ～新たな価値の創造～

■ 将来像

府中の本物（まんなか）を感じ、「楽しみ」「暮らせる」まち

【主 旨】
中心市街地・生活中心街には、備後国府時代から近代・近世に至る歴史・文化的価値の高い遺跡や古民家等の資源が数多く残っているとともに、まち全体にもそうした時代の風情が閉じ込められています。しかし、その反面、歴史的・文化的資源がその価値を活かしきれず放置されていることに加え、都市部への人口の流出等も相まって、まちなかに遊休不動産が点在し、時代の風情が失われている状況です。
本市では、リノベーション先進都市として、歴史・文化的価値の高い古民家やまちなみの価値、風情を後世に継承しつつ、時代ニーズに合った活用しやすい用途・機能へと転換を図るなど、他の地域にはない『府中の本物（まんなか）』を感じさせる、“古さ”と“新しさ”が融合するリノベーションまちづくりを実践します。
また、本市には“オンリーワン・ナンバーワン企業”と言われる県内屈指のものづくり企業が数多くあります。そうした企業は、本市の経済・社会を長きにわたり支える地場産業であるとともに、“ものづくりのまち府中”のシンボルとして、現在も様々なものづくりを活発に行っています。そのため、今後も中心市街地・生活中心街のまちなみに、様々な”ものづくり“の機能を位置づけたリノベーションまちづくりを展開します。
これらの備後国府としての歴史や職人が支えるものづくり都市としての発展の歴史等を本市の強みとして確実に将来に継承するとともに、時代に合わせた先進的な技術を新たに取り込むことによって、市民と来街者が府中の本物（まんなか）を感じ、府中を楽しみ、暮らせるまちなかを実現します。

【市民の暮らしやすさの視点】

誰もが府中に愛着や誇りを感じ、暮らしを楽しんでいるまち

生活に必要な機能等が駅周辺に集積し、道路や公共交通機関で結ばれることで、中心市街地を含む都市全体で住みやすく、快適な生活空間が形成され、人々は仕事と趣味を両立した日常生活を満足し、ゆったりと過ごしています。
また、行政と市民、民間企業が連携した取組が進み、職住遊が近接した暮らしの中で多世代が活発に交流し、子どもから高齢者まで誰もがアイデンティティを感じ、他にはない府中の魅力・府中暮らしを満喫し、楽しんでいます。

【訪れる人々や受け入れる人々の視点】

来街者や活動団体など、多様な人々の観光交流・ビジネス活動がアクティブなまち

市民・活動団体等によってなされる小さなまちづくり活動の積み重ねや多様な立場の人による技術やアイデア、知識等の組み合わせ、歴史やものづくりを活かしたリノベーションまちづくりにより、ものづくり体験や見学など身近に感じられるイベント開催を通じて、ものづくりのまちを楽しみ、古くから残されているまちなみをどこか懐かしく感じて歩いてみたくなる空間が形成されています。
また、多様な年齢・立場の多くの来街者や国内外問わず観光客が集い、交流・滞留する場が創出されるとともに、中心市街地・生活中心街における活動やイベント、移動が活発に感じられるまちとなっています。さらに、地方へのオフィス移転等も進み、ビジネス活動が活発になっています。

将来像を２つの視点に分けて考えると、それぞれの過ごし方が見えてくるわね
次のページでは、将来像を踏まえて20～30年後どんな過ごし方をしてるのかイメージしてみましょ！

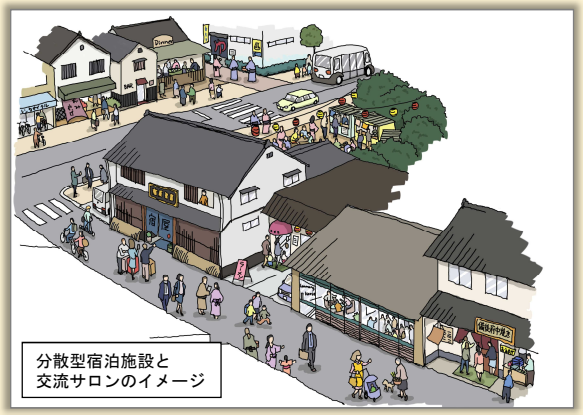
将来の過ごし方イメージは…？

２　２０～３０年後の将来の過ごし方イメージ

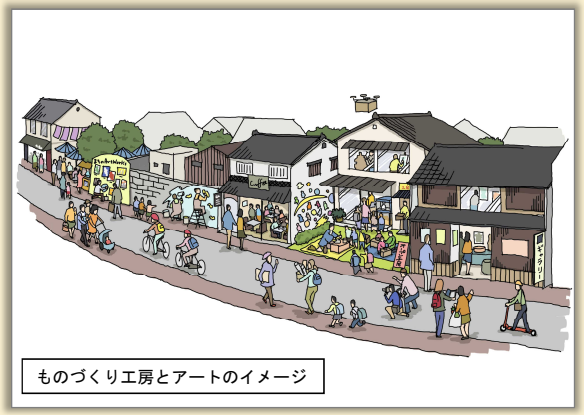
出口地区～本町商店街周辺地区

市民の将来の過ごし方

○職住遊近接で充実した暮らしを送る移住者が増えている



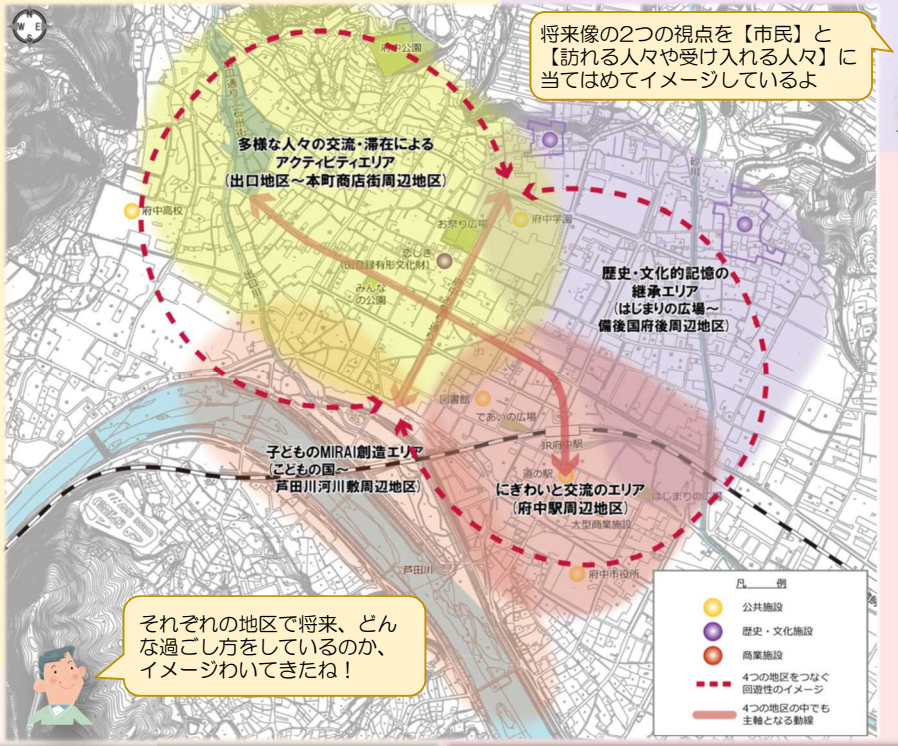
分散型宿泊施設と
交流サロンのイメージ



ものづくり工房とアートのイメージ

訪れる人々や受け入れる人々の将来の過ごし方

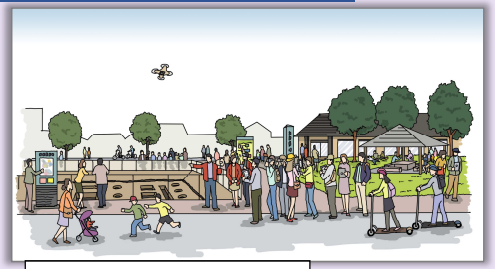
○宿泊施設や交流サロンへのリノベーションにより外国人宿泊客が増えている
○来街者によるものづくり体験と地域の活動の融合
○郡役所の多目的利用によって多くの人々の滞留・交流が活発になっている
○空き家等を活用したギャラリーやウォールアートを楽しむ人が増え回遊性が向上している



将来像の2つの視点を【市民】と【訪れる人々や受け入れる人々】に当てはめてイメージしているよ

それぞれの地区で将来、どんな過ごし方をしているのか、イメージわいてきたね！

はじまりの広場～備後国府跡周辺地区



史跡公園の日常的利用のイメージ

市民の将来の過ごし方

○史跡の内容がわかりやすく伝わるよう史跡公園が整備され、日常的に利用されている
○発掘調査の見学会や体験イベントが好評になっている
○市史が編さんされ、多くの市民が府中市の歴史を語れるようになっている

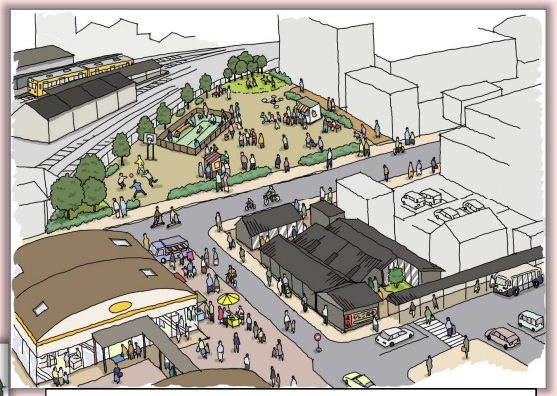
訪れる人々や受け入れる人々の将来の過ごし方

○史跡の内容がわかりやすく伝わるよう史跡公園が整備され、多くの来街者が訪れている
○福山・府中エリアの歴史文化をたどるツーリズムが人気となっている
○府中の歴史等を伝えるガイド活動が盛んになり、わかりやすい内容が人気になっている

府中駅周辺地区

市民の将来の過ごし方

○駅と道の駅が一体となった交流広場で人々がゆったり過ごす
○健康で快適な生活環境となっている
○駅周辺を中心として、多世代が活発に交流
○仕事終わりに趣味や飲食等を楽しみ交流する



JR府中駅と一体となった道の駅周辺の多世代交流のイメージ

訪れる人々や受け入れる人々の将来の過ごし方

○JR府中駅のリニューアルと交通結節機能の向上
○地元企業等によるイベントやセミナーで学生や高齢者等が交流
○ものづくり府中のイメージが広く浸透
○国府のあったまち、ものづくりのまちであることを肌で感じる

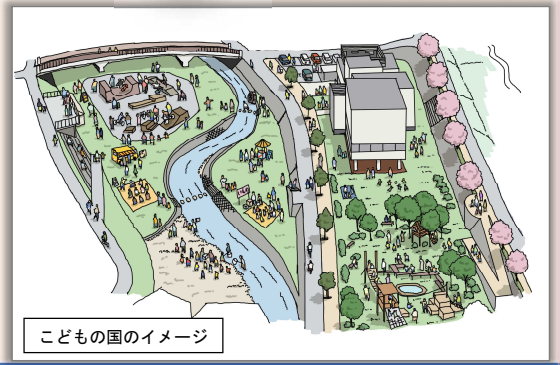
こどもの国～芦田川河川敷周辺地区

市民の将来の過ごし方

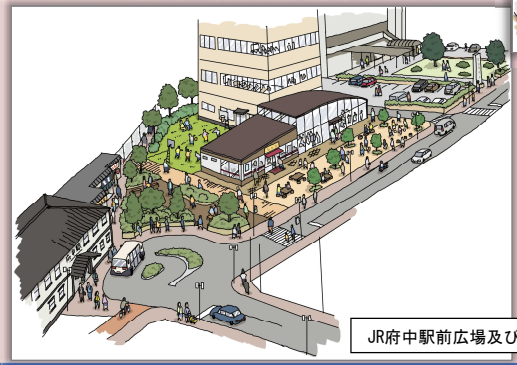
○平日・休日ともにアウトドアを満喫する市民が増えている
○水辺と親しむ子どもや河川空間をウォーキング等で活用する市民が増えている

訪れる人々や受け入れる人々の将来の過ごし方

○週末に府中の自然やスポーツを満喫する来街者が増え、にぎわっている
○駅周辺などからも府中市こどもの国を利用する来街者が増え、府中を楽しんでいる



こどもの国のイメージ



JR府中駅前広場及び図書館等の知の拠点のイメージ

3　将来像の実現に向けた方針と取組

古民家等のリノベーション

地域分散型ホテルの整備

トップアスリートとの交流や新しいスポーツ機能の導入

広場空間と一体となった遺構の保存・活用イメージ

国府ウォーク（歴史関係イベント）の様子

整備されたはじまりの広場

多様な人々の交流・滞在によるアクティビティエリア

【取組方針】

・石州街道出口地区の景観を活かしリノベーションした施設において、特産品の販売や体験、地域活動やイベントの開催など、地域住民と来街者が交流し、出会う場を形成

・近代・近世のまちなみ、府中を代表する建築物の修景を図り、既成概念にとらわれない建物活用により、まちなみの魅力を引き出す

・市民による空き家・空き店舗等の有効活用により、暮らしや立ち寄れるスポットづくりで、まちあるきを楽しめるエリアを形成

・お祭り広場や府中市地域交流センター等を中心に多様な人々が交流・滞在するイベントや地域活動の場として活用、活動や交流による賑わいやアクティビティが感じられる拠点を形成

子どものMIRAI創造エリア

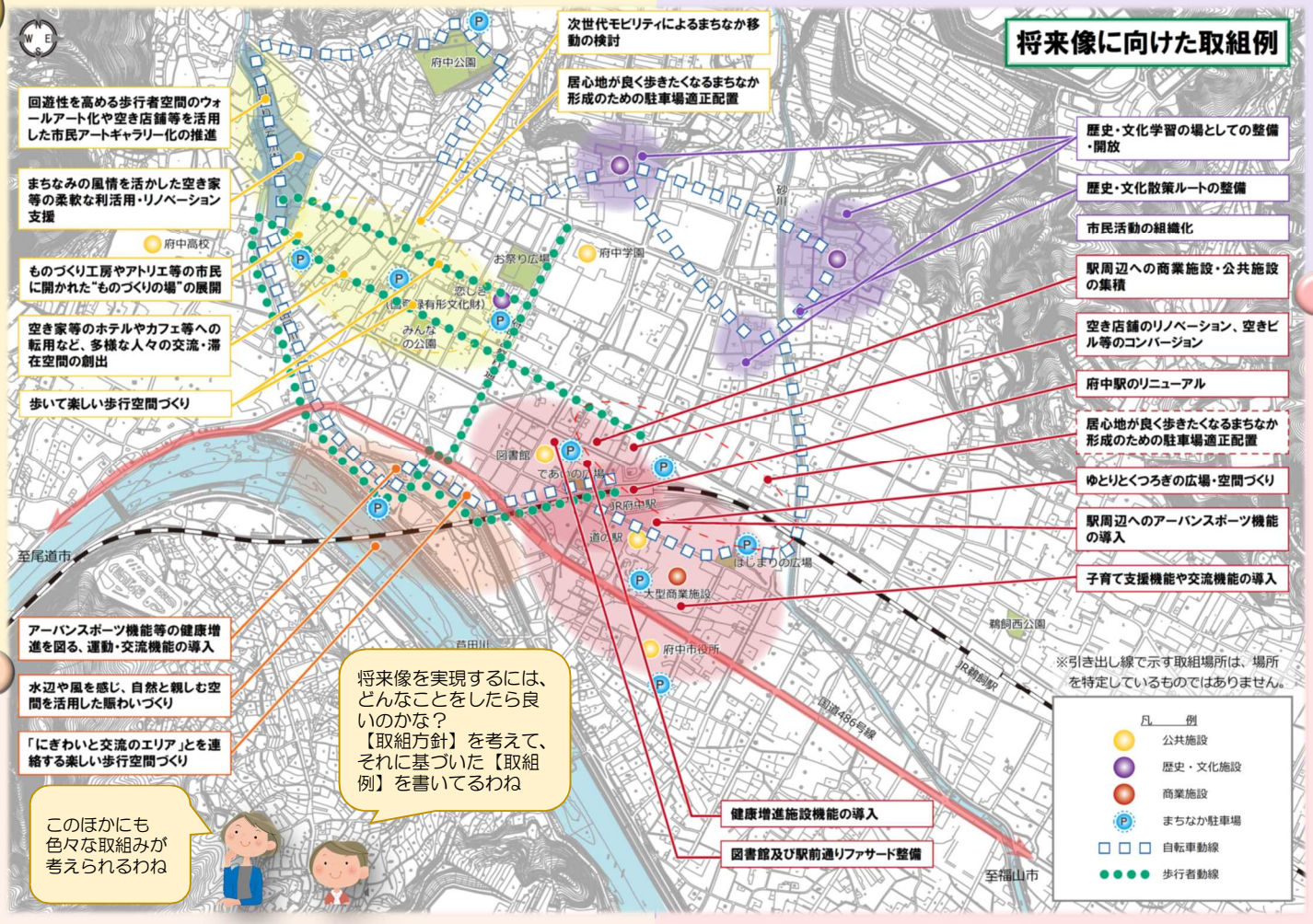
【取組方針】

・子どもやその家族も楽しめるエリアとして、こどもの国を中心に、芦田川と出口川を結ぶ自然が充実したエリアを形成

・児童館の外遊びや周辺と連動した公園整備を行い、賑わいをまち全体に波及・発信、”遊び”を通じた子どもたちの健全な成長を促す

・河川空間活用との連動やＰＯＭ小路を歩いて楽しめる空間にし、駅とのつながりをつくる

・子どもたちから高齢者までが、スポーツを日常の一部として楽しめる環境をつくる



歴史・文化的記憶の継承エリア

【取組方針】

・「史跡備後国府跡」の指定地を市民、子どもたちの学習や憩いの場、イベント会場や遊び場として、また県内外の来街者が集う観光と交流の場所とする

・建物等の復元、VR・ARなどのICT技術の活用により、楽しく分かりやすく整備・活用する

・府中の歴史・文化に関わる資料の収集・調査研究・展示公開・学習支援を行う拠点施設を設置、府中の歴史・文化・観光などの情報を発信

・歴史・文化の町中散策やツーリズム、市民のガイド活動など、様々な仕掛けづくり

にぎわいと交流エリア

【取組方針】

・JR府中駅周辺を再整備し、交通結節点機能の強化、移動の快適さを図る

・市内外の人々の交流（ハブ）拠点や大学等と連携した教育や研究など、次世代通信技術を使い学習できる拠点づくり

・空き店舗・空きビル等の遊休不動産の活用

・生活機能の中心拠点として、子育て層をはじめ、市民がゆったりと時間を過ごせる場所づくり

・誰もが府中暮らしを楽しめるよう、生活機能の中心地と周辺の住宅地を効果的・効率的に連絡

・中心となる賑わい拠点として、利便機能と娯楽機能を交差し、市内外の人々の交流を促進する拠点を形成

・子育て層がゆったりと時間を過ごせるよう、駅南北のつながりや、“子どものMIRAI創造エリア”との一体的なエリアを形成

賑わいに溢れる河川空間

河川を総合学習の場として活用

キッチンカーなどによる賑わいの創出

芝生広場でのくつろぎ空間創出

カフェ等による賑わい創出

道の駅における賑わい創出